

ピクトグラム

2025.9.29 校長 西谷 秀幸

今から4年前の2021年に東京で2回目のオリンピックが開かれました。柔道では阿部兄妹が同じ日に兄弟そろって金メダルを取り、野球やソフトボールは、東京オリンピックだけ復活して、金メダルを取りました。上の学年の人たちは覚えていますか。

その東京オリンピックの開会式で、こんなパフォーマンスが話題になりました。オリンピックの種目を絵で表している「ピクトグラム」を人間が表したのです。今日は、そのピクトグラムについて、お話しします。

オリンピックやパラリンピックでも使われているピクトグラムは、「一目で見て、何を示しているか分かるマーク」です。

では、このピクトグラムを世界に広めたのは、どこの国の人でしょう。

①フランス人 ②アメリカ人 ③日本人 (正解は、日本人)

ピクトグラムが、世界に広がったきっかけは、今から61年前の1964年に日本で始めて行われた東京オリンピックでした。

オリンピックには、世界中からたくさんの外国人がやってきます。しかし、61年前の日本では、レストランは「食堂」、トイレは「お手洗い」等と日本語で書かれていました。しかも、今と違って、日本人は英語が得意な人が少なかったため、外国の人たちをどうやって案内したらいいのか、問題になっていたのです。

そこで、英語などの言葉で書くのではなく、誰が見ても分かるマークを作って案内しよう…ということになり、39種類のピクトグラムが考えられました。これがオリンピックによって世界で注目され、その後、世界中にピクトグラムが広がるきっかけになりました。

実は、オリンピックのピクトグラムは、大会ごとにオリンピックを行う国が作って良いことになっています。だから、毎回、同じではないのです。

では、最初の東京オリンピックのときは、どんなピクトグラムだったのでしょうか。これがその一部です。

例えば、この2つの種目のピクトグラムを見てください。少し違いますが、ほとんど変わっていませんね。では、一体、何の種目でしょうか。

正解は、上が「陸上」、下が「レスリング」です。

では、1964年の東京オリンピックで使われたこの2つのピクトグラムは、何の種目でしょう。ちなみに、2021年の東京オリンピックではこんな風になっています。

正解は、上が「バレーボール」、下が「柔道」です。皆さんは、どちらの方が分かりやすいですか。

同じ東京で行われたオリンピックなのに、昔と今では、違うのです。

このピクトグラムですが、実は、オリンピックなどのスポーツだけではありません。

例えば、これは何を示しているか分かりますね。そうです。「トイレ」です。これもピクトグラムなのです。でも、昔の東京オリンピックのときは、トイレのピクトグラムがこんな感じでした。ですから、今では当たり前の「トイレ」のピクトグラムも、しばらくの間は広まらなかったそうです。

これも分かりますね。「非常口」です。このピクトグラムは、1964年の東京オリンピックが終わったあと(9年後)に作られました。熊本県にあるデパートで大きな火事があり、そのことがきっかけで、このような緑色のピクトグラムが作られたのです。

実は、この非常口の色には意味があって、なんで緑色なのか…というと、火事が起きたときに、赤い火の中でも緑色が一番はっきり分かる色だからなのでそうです。

他にも、こんなピクトグラム(Wi-Fi・撮影禁止)、見れば何を表しているか、すぐに分かりますね。ピクトグラムは、学校の中にも街の中にたくさんあるので、ぜひ、探してみましよう。

ちなみに、東京オリンピックの後、このようなオリジナルのピクトグラムを自分で考える人がいてSNSで話題になりました。

もうすぐ運動会があるので、自分たちの出る種目や案内する看板など、オリジナルのピクトグラムを考えてみると面白いですね。もし、考えた人がいたら、ぜひ見せに来てください。

これで朝会のお話を終わります。

(裏面に「先生方へ」があります)

〈先生方へ〉

先週は、校内研究における第1回目の授業研究、お疲れさまでした。本来ならば、平成2年度の全面実施により、どの小学校でも取り組まれるはずだったプログラミング教育ですが、コロナ禍により、一気に下火になったことは周知のとおりです。

しかしながら、講師の先生の話にもあったように、大学入学共通テストに「情報Ⅰ」が必修化されるなど、このプログラミング教育は紛れもなくこれからの時代に必要な学習です。そして、プログラミング教育を通して、「見通しをもち」「チームで」「トライ＆エラーを繰り返しながら粘り強く」課題解決を図る力は、本校の教育の3本柱の1つでもあり、今の学校教育において育てるべき、非常に大切な力です。

まずは、本校での「ゴール」を示してくださったことで、今後、下学年がどのようにして積み重ねていくか、実践を通して考えながら考えていくこととなります。新たなことに取り組み、道標を示してくださった梅木先生、高学年分科会の先生方、ありがとうございました。

さて、今回は、2021年の東京オリンピックの開会式で、パントマイムパフォーマー「が～まるちょぼ」のHIRO-PONさんたちによるパフォーマンスが話題になったピクトグラムについて話をしました。

ピクトグラムが世界に広まるきっかけを作ったのが、1964年の東京オリンピックであり、日本人であるということは、非常に誇りに思えることです。また、東京オリンピック後、デザイナーたちがピクトグラムを社会的に広めるとの理由で著作権を放棄したため、今、世界中でピクトグラムが利用されるようにもなりました。

今や日常生活に欠かせないものとなっているピクトグラムについて、さらに関心を高め、調べたり考えたりしてくれると嬉しく思います。学級の実態に応じて、補足をよろしくお願ひします。

【資料】ピクトグラムについて

ピクトグラムは、情報や注意を示すために表示される視覚記号の一つで、一般的に絵文字、絵単語と呼ばれています。主に鉄道、駅、空港などの公共機関で使用され、文字や文章ではなく視覚的な図で表現することで、言語に制限されずに内容の伝達を直感的に行う事ができます。(中略) 現在、目にしている「ピクトグラム」の形が世に広まったのは1964年以降で、そのきっかけは東京オリンピックでした。

当時の日本人の英語力では、日本に来た外国人と十分なコミュニケーションをとれる状態ではなかったため、「誰が見てもわかるマークを作ろう」と第一線で活躍するデザイナーを終結させ考案されたのが、オリンピック競技種目や食堂などのピクトグラムです。その種類はオリンピック競技なども含めて約39種類。デザイナーたちが「社会に還元すべき」と著作権を持たなかったため、便利なピクトグラムは東京オリンピックをきっかけに世界中に発信されたのです。ちなみに今では世界中どこでも見かける「トイレ」のピクトグラムは、男女だけのアイコンが「トイレ」と認識されるまでには年数を要し、一般的になったのは1970年の大阪万博からと言われています。ピクトグラムは高度成長期での大きな2つのイベントに深く関わっていたのです。

ピクトグラムと言えば緑色の「非常口」が世界的にもポピュラーですが、この非常口のピクトグラムが生まれたきっかけは、1973年の熊本デパート火災でした。その前年にも関西でデパート火災があり、消防法が見直しされる過程で緑色の非常口が誕生したと言われています。赤い炎の中では緑が一番映える色であり、「ここを逃げてください」という指示がひと目でわかるようになっている素晴らしいデザインのため、非常口はピクトグラムのお手本とまで言われるようになりました。近年では災害が続いて、水害や津波、土砂崩れなどを示すピクトグラムも見直され、よりわかりやすく改善されている傾向にあります。このようにピクトグラムが誕生する背景には、事件や災害などがきっかけとなるケースは非常に多いのです。

<https://www.orientalize.co.jp/contents/kanban/floorseal/366/>